

原水協活動 FAX News

発行:原水爆禁止日本協議会

電話03 5842 6031 FAX03 5842 6033

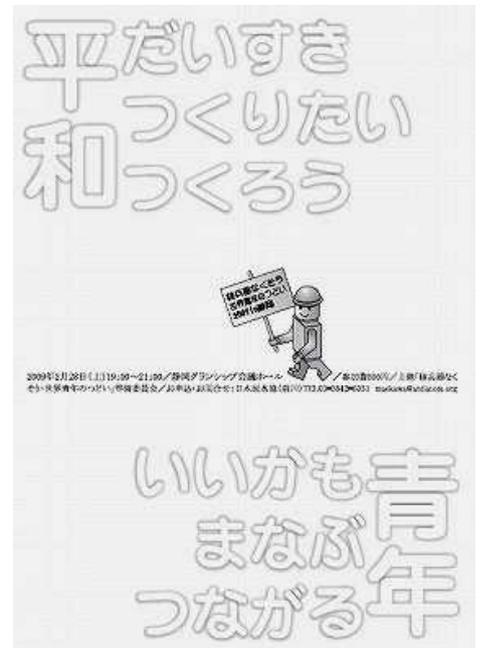
URL <http://www.antiatom.org/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2009年1月31日 No. 10

魅力いっぱいのにぎにデーに参加しよう

「核兵器なくそう・世界青年のつどい2009 in 静岡」

「継承と発信」をメインテーマにしてきた核兵器なくそう・世界青年のつどい準備委員会は2月28日、19時からグランシップ静岡・11階会議ホール「風」で「核兵器なくそう・世界青年のつどい2009 in 静岡」を開催します。今年の運動の出発点となる「つどい 09in 静岡」では、静岡現地実行委員会が手がけるにぎに事件の実相に迫る映像や、安斎育郎先生、ジョゼフ・ガインザさん（アメリカ）、イ・ジュンキュさん（韓国）をパネリストに迎え、世界に広がる核兵器廃絶の流れと自分たちの日常がつながるパネルディスカッション、そして地元に戻って運動を広げていきたいと思えるような交流の場を準備しています。参加費500円。お問合せは日本原水協・前川まで。

なお、同日の分科会6「にぎに事件と原水爆禁止運動を学ぼう」では、少人数のグループトークで深めます。青年向けです。



核兵器廃絶の流れ確信に、新署名の飛躍を 北海道原水協学校に60名

1月24日、北海道原水協学校が札幌市内で開かれ、厳しい寒さの中、道内18地域、13道団体から60名が参加し、2010年NPT再検討会議に向けた新署名の意義、原爆症認定集団訴訟問題と被爆者のたたかいについて学習し交流しました。

新署名運動の意義について講演した日本原水協の安井正和事務局次長は、核兵器廃絶を求める流れが、非同盟運動、新アジェンダに加えて、核保有国や同盟国の政府・指導者の「核兵器のない世界」のよびかけとなって大きなひろがりを見せていることを具体的な資料を示して紹介。この流れを实らせるカギが被爆国日本の運動にあり、1200万署名の成功にあることを強調し、3・1にぎにデーへの参加をよびかけました。被爆者のたたかいについて講演した田中熙巳日本被団協事務局長は、マレーシア原爆展参加の体験を報告しつつ、“人類と核兵器は共存できない”という認識が人類の生き方の基本になることを被爆者は願っていると述べ、原爆症認定集団訴訟など被爆者のたたかいの支援を訴えました。

関東甲信越ブロック会議でNPT焦点に原水協の役割議論 - 長野

日本原水協関東甲信越ブロック会議が1月26、27日に長野県で開催され、茨城、栃木、群馬、東京、埼玉、千葉、神奈川、山梨、新潟、長野各県から35人が参加、学習や交流を深めました。

開会集会に続いて行われた講演会では、日本原水協の土田弥生事務局次長が「NPT焦点に広がる核兵器廃絶の動きと日本原水協の役割」と題して講演。つい先日マレーシアで行われた原爆展の報告も交えながら、核兵器廃絶に向けた世界の大きな流れの変化と日本の現状、その中で求められている日本原水協の果たすべき役割について話されました。続いて各県の参加者から、マレーシア訪問の様子や、各県での署名行動のとりくみについて活発な意見交換が行われました。